

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年4月実績 速報版(パネル270)

3月実績 確報版(パネル270)

2018年度実績 確報版

(2019年5月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年5月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年4月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,519,924	100.0%	100.2%	99.0%
食品合計	79,088,173	90.4%	100.7%	99.4%
生鮮3部門合計	29,703,412	33.9%	100.6%	99.3%
青果	12,064,646	13.8%	100.5%	99.3%
水産	7,592,183	8.7%	101.2%	99.9%
畜産	10,046,582	11.5%	100.2%	98.9%
惣菜	9,118,986	10.4%	102.3%	100.9%
日配	17,032,001	19.5%	100.0%	98.6%
一般食品	23,233,775	26.5%	100.6%	99.6%
非食品	6,008,798	6.9%	95.7%	95.6%
その他	2,423,004	2.8%	99.8%	99.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,028,044	43	99.6%	99.0%
関東地方	32,439,950	73	100.6%	99.1%
中部地方	10,756,925	53	100.5%	99.2%
近畿地方	18,831,789	44	99.9%	98.5%
中国・四国地方	8,710,341	34	100.0%	99.2%
九州・沖縄地方	4,752,874	23	99.8%	99.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	628,532	45	95.1%	95.1%
4～10店舗	4,048,388	76	98.8%	99.1%
11～25店舗	9,491,798	60	99.7%	99.1%
26～50店舗	15,787,486	45	100.0%	99.6%
51店舗以上	57,563,719	44	100.4%	98.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,009,780	
総店舗数 (店舗)	7,970	店舗平均月商 (万円)	10,981	
総売場面積 (㎡)	13,204,060	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年5月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年3月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,497,119	100.0%	100.7%	99.5%
食品合計	80,135,329	90.6%	100.7%	99.5%
生鮮3部門合計	30,282,763	34.2%	99.6%	98.3%
青果	12,334,674	13.9%	95.9%	94.8%
水産	7,803,328	8.8%	101.2%	99.9%
畜産	10,144,762	11.5%	103.0%	101.7%
惣菜	9,201,591	10.4%	101.2%	99.8%
日配	17,043,939	19.3%	101.0%	99.8%
一般食品	23,607,036	26.7%	101.9%	100.8%
非食品	5,815,253	6.6%	99.8%	99.4%
その他	2,546,583	2.9%	101.3%	100.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,465,418	43	100.5%	99.7%
関東地方	33,201,434	73	101.6%	100.3%
中部地方	10,892,169	53	100.6%	99.6%
近畿地方	18,232,902	44	99.1%	98.0%
中国・四国地方	8,869,051	34	100.8%	99.2%
九州・沖縄地方	4,836,145	23	100.0%	99.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	629,819	45	94.0%	94.8%
4~10店舗	4,126,054	76	98.4%	98.4%
11~25店舗	9,733,069	61	99.9%	99.6%
26~50店舗	15,859,738	44	100.6%	99.7%
51店舗以上	58,148,440	44	101.0%	99.6%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,700,788	
総店舗数 (店舗)	7,945	店舗平均月商 (万円)	11,139	
総売場面積 (㎡)	13,179,318	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

*売上高は税抜金額

*売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年5月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2018年度実績（パネル270） 確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,076,142,215	100.0%	100.5%	99.4%
食品合計	961,909,166	89.4%	100.9%	99.6%
生鮮3部門合計	364,548,684	33.9%	100.5%	99.2%
青果	148,190,932	13.8%	100.5%	99.3%
水産	93,119,682	8.7%	100.3%	99.0%
畜産	123,238,070	11.5%	100.6%	99.2%
惣菜	109,007,161	10.1%	102.2%	100.5%
日配	209,181,059	19.4%	100.9%	99.8%
一般食品	279,172,262	25.9%	100.9%	99.8%
非食品	78,732,156	7.3%	97.8%	97.5%
その他	35,500,894	3.3%	98.5%	98.4%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	149,768,142	43	100.6%	99.1%
関東地方	397,518,073	73	101.0%	99.8%
中部地方	131,632,770	53	100.4%	99.5%
近畿地方	230,562,346	44	100.0%	99.5%
中国・四国地方	107,677,862	34	100.6%	98.7%
九州・沖縄地方	58,983,022	23	99.0%	98.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	7,701,187	44	95.2%	95.9%
4～10店舗	46,162,887	73	99.4%	98.8%
11～25店舗	123,211,586	64	99.1%	98.6%
26～50店舗	191,133,097	45	100.0%	99.1%
51店舗以上	707,933,459	44	101.0%	99.8%

※保有店舗数カテゴリーは2018年4月時点での保有店舗数による分類

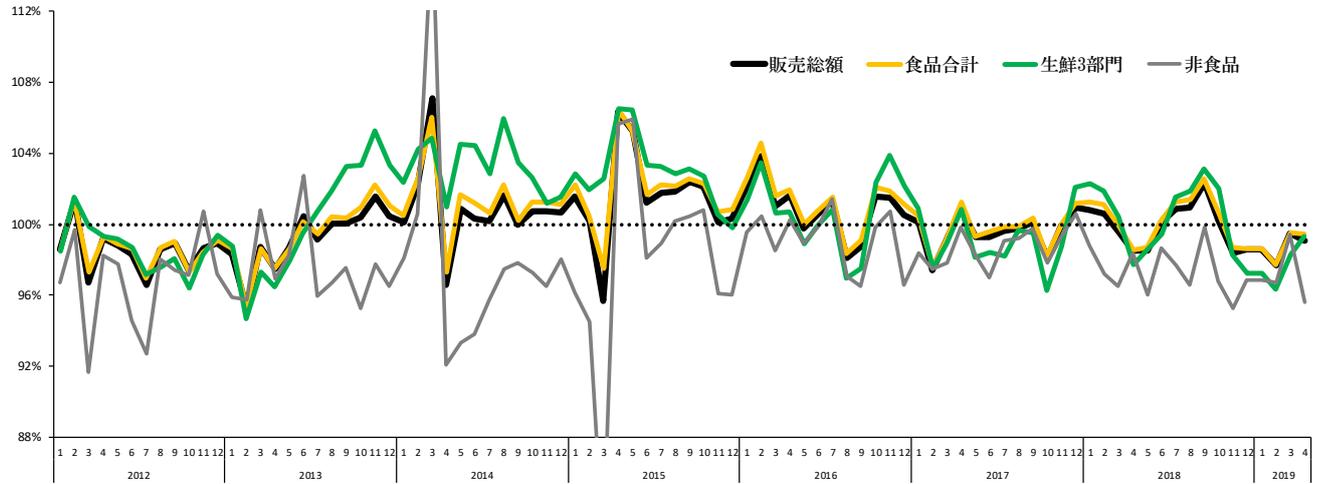
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,048,191,959
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

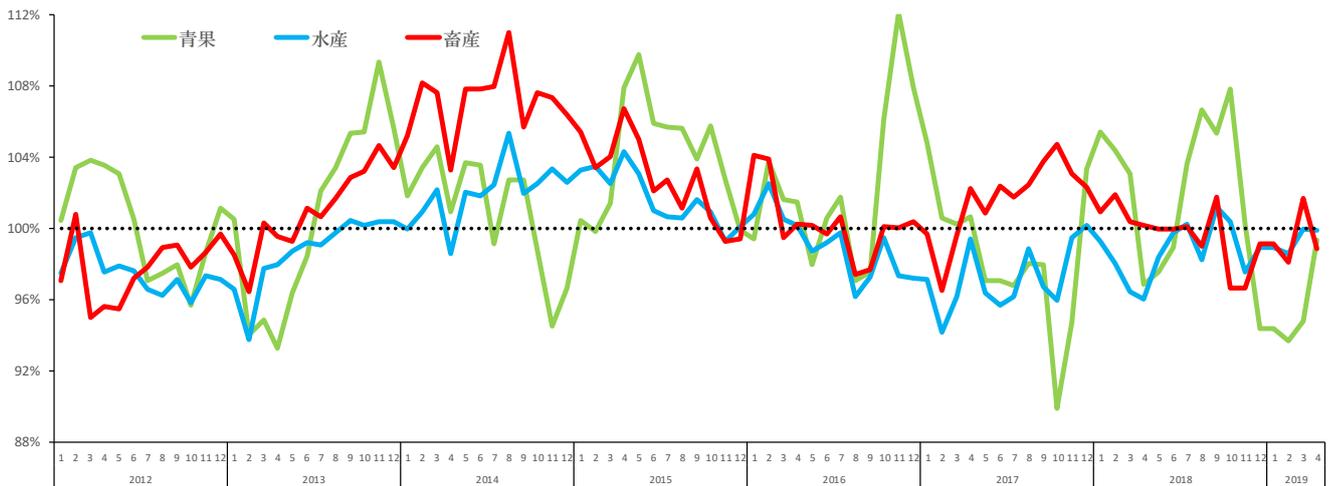
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

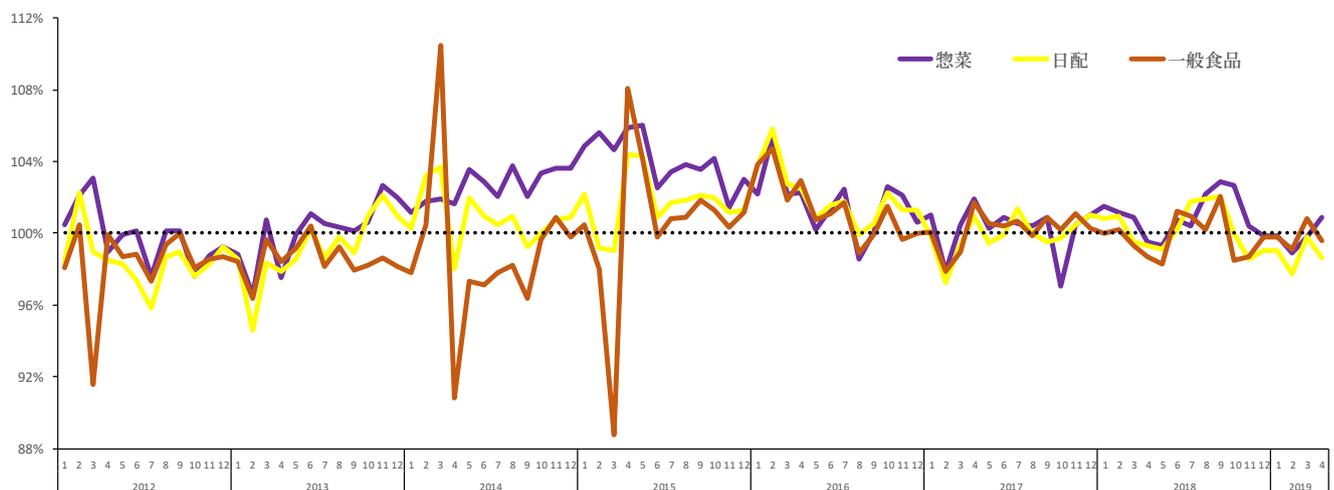
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年4月実績は速報値

2019年4月エリア別気候状況

1. 4月気温の特徴：東日本で低く、沖縄・奄美で高かった

上旬：北日本から西日本で低く、沖縄・奄美で高かった。

中旬：北日本で高く、東・西日本と沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：沖縄・奄美でかなり高かった。東・西日本で高く、北日本では平年並だった。

2018年4月との比較：上旬、東日本を中心に前年よりかなり低い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年4月			2018年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-1.3	2.4	0.6	-0.1	1.2	2.4	-1.2	1.2	-1.8
東北地方	-1.7	0.7	0.1	0.5	1.3	2.9	-2.2	-0.6	-2.8
関東甲信地方	-1.7	-0.3	0.6	3.1	1.7	3.3	-4.8	-2.0	-2.7
北陸地方	-1.5	-0.3	-0.2	1.4	0.7	2.6	-2.9	-1.0	-2.8
東海地方	-1.1	-0.6	0.7	2.2	1.3	2.6	-3.3	-1.9	-1.9
近畿地方	-1.2	-0.7	0.7	2.1	1.4	2.1	-3.3	-2.1	-1.4
中国地方	-1.0	-0.6	0.5	1.8	1.1	1.6	-2.8	-1.7	-1.1
四国地方	-0.7	-0.4	1.1	1.9	1.5	1.6	-2.6	-1.9	-0.5
九州北部	0.0	0.0	0.9	2.3	1.5	1.4	-2.3	-1.5	-0.5
九州南部・奄美地方	-0.2	-0.1	1.4	1.2	1.2	1.0	-1.4	-1.3	0.4

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 4月日照時間の特徴：北日本でかなり多かった

上旬：北・東日本太平洋側と西日本でかなり多かった。北日本日本海側と沖縄・奄美は多かった。

中旬：北日本でかなり多く、東・西日本では多かった。沖縄・奄美では少なかった。

下旬：西日本と東日本日本海側でかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。一方、北日本日本海側で多かった。

2018年4月との比較：下旬、北海道地方を除いてやや少ない日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年4月			2018年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	125	150	125	74	113	131	51	37	-6
東北地方	97	145	85	75	95	111	22	50	-26
関東甲信地方	129	134	70	125	105	117	4	29	-47
北陸地方	95	139	62	90	101	111	5	38	-49
東海地方	145	120	67	122	99	120	23	21	-53
近畿地方	141	129	57	113	113	115	28	16	-58
中国地方	127	128	58	101	112	112	26	16	-54
四国地方	148	130	70	128	123	113	20	7	-43
九州北部	129	134	70	116	116	116	13	18	-46
九州南部・奄美地方	151	116	68	145	131	125	6	-15	-57

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

3. 4月降水量の特徴：北日本で少なく、沖縄・奄美では多かった

上旬：北日本で少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

中旬：北日本日本海側、東日本、西日本太平洋側で少なく、西日本日本海側ではかなり少なかった一方、沖縄・奄美は多かった。

下旬：西日本と東日本太平洋側で多く、東日本日本海側ではかなり多かった。

2018年4月との比較：上旬はやや多く、中旬はやや少なく、下旬は多い降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年4月			2018年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	56	69	38	51	122	26	5	-53	12
東北地方	82	57	120	132	90	94	-50	-33	26
関東甲信地方	95	37	125	17	113	133	78	-76	-8
北陸地方	122	44	181	153	143	0	-31	-99	181
東海地方	80	44	224	35	181	159	45	-137	65
近畿地方	86	50	171	46	123	205	40	-73	-34
中国地方	110	13	192	63	0	203	47	13	-11
四国地方	60	59	165	23	57	144	37	2	21
九州北部	78	11	146	42	0	136	36	11	10
九州南部・奄美地方	74	31	149	23	106	50	51	-75	99

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「4月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2019年5月調査結果（4月実績）
（2019年5月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

5月調査（4月実績）結果概況

景気判断DI 現状、見通し判断共に小幅ながら2か月連続の改善

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から+0.7の44.9、見通し判断は前月から+1.6の42.8となり、共に小幅ながら2か月連続で改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共にマイナス圏で前月と同水準の推移となった。青果の相場が前年並みに戻ったことで生鮮仕入原価DIが2.3、一般食品に値上げが相次いでおり食品仕入原価DIは7.1まで上昇し、客単価DIは2.0とプラス圏を回復した。一方で、日曜日が一回少ない曜日めぐりや花見時期の天候などの影響で、来客数DIは-13.9とややマイナス幅を拡大したため、前月と売上高や収益に大きな変化はみられなかった。

カテゴリ動向調査では、青果相場の回復により青果DIが-8.2、GW商戦で刺身類などが好調であった水産カテゴリも-0.8と共に大幅にマイナス幅を縮小した。一方で前年より低い気温により、涼味商材の動きが悪く、消費の低迷により競合が厳しさを増す中で他のカテゴリDIでは伸び悩みをみせた。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、小幅ながら2か月連続で改善したものの、昨年10月以降の悪化により中長期下落トレンドには変化がみられていない。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

今月は、大型連休前の消費動向の違いや、気温差により商品動向にばらつきが特に大きい月となった。食品について、需要予測など発注技術の効率化が進むなかで、これまで経験のない大型連休前の消費動向や気候の急変など不確実性による消費者行動の変化の影響が大きく、状況に応じて、臨機応変な対応力が、今後の差別化戦略のひとつになるのではないだろうか。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：44.9 (+0.7) 前月：44.2	消費者購買意欲DI 当月：45.1 (+2.0) 前月：43.1	周辺地域 競合状況DI 当月：42.2 (+1.1) 前月：41.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：45.3 (+0.6) 前月：44.7
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：42.8 (+1.6) 前月：41.2	消費者購買意欲DI 当月：43.7 (+1.3) 前月：42.4	周辺地域 競合状況DI 当月：41.5 (+3.0) 前月：38.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：44.4 (+0.6) 前月：43.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-10.3 (+0.2) 前月：-10.5	客単価DI 当月：2.0 (+5.8) 前月：-3.8	来客数DI 当月：-13.9 (-3.0) 前月：-10.9	
収益DI 当月：-10.6 (-1.1) 前月：-9.5	販売価格DI 当月：4.8 (+7.0) 前月：-2.2	生鮮品仕入原価DI 当月：2.3 (+4.7) 前月：-2.4	食品仕入原価DI 当月：7.1 (+1.7) 前月：5.4

カテゴリ動向

青果DI 当月：-8.2 (+14.8) 前月：-23.0	水産DI 当月：-0.8 (+1.5) 前月：-2.3	畜産DI 当月：-9.5 (-6.9) 前月：-2.6	
惣菜DI 当月：0.8 (+3.0) 前月：-2.2	日配DI 当月：-10.7 (-2.2) 前月：-8.5	一般食品DI 当月：-5.7 (-5.7) 前月：0.0	非食品DI 当月：-13.1 (-4.3) 前月：-8.8

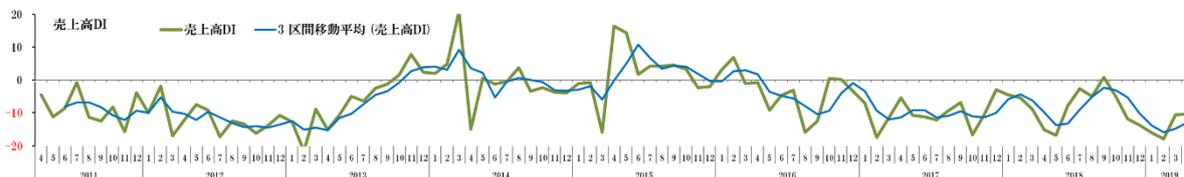
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

5月調査（4月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

二桁マイナス圏で前月と同水準で推移

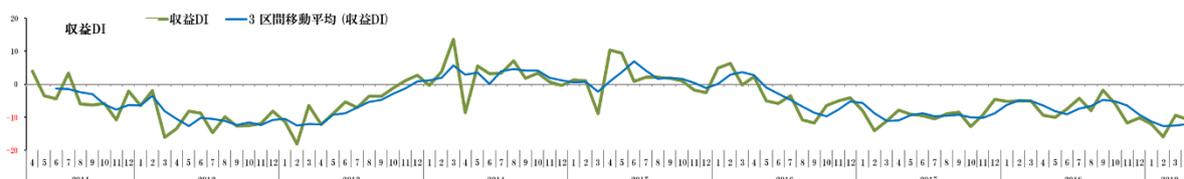
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	14.1	35.9	29.2	19.8	1.0	-10.5
売上高 (当月)	12.0	38.9	28.7	19.2	1.2	-10.3



2. 収益DI

わずかに下落し二桁マイナスを記録

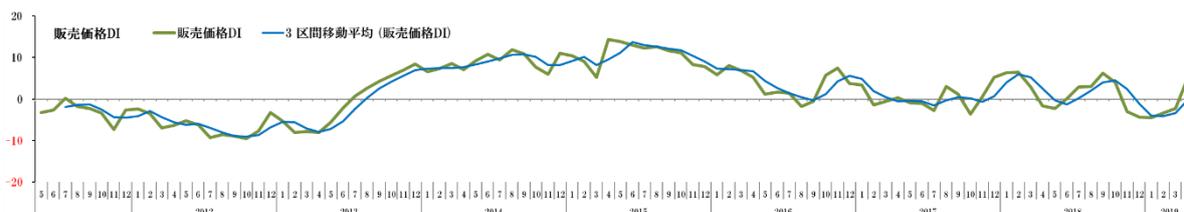
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	10.5	40.0	27.9	20.0	1.6	-9.5
収益 (当月)	10.5	39.5	34.0	14.2	1.9	-10.6



3. 販売価格DI

今月上昇し、プラス圏を回復

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	24.6	58.1	16.8	0.0	-2.2
販売価格 (当月)	0.0	10.8	59.0	30.1	0.0	4.8



4. 客単価DI

今月上昇し、プラス圏を回復

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.6	30.4	49.7	18.3	0.0	-3.8
客単価 (当月)	1.2	24.7	40.4	32.5	1.2	2.0



5. 来客数 DI

再び下落し、二桁マイナス圏で低迷続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.9	41.1	36.3	12.1	1.6	-10.9
来客数 (当月)	11.4	48.8	25.9	11.4	2.4	-13.9



6. 生鮮仕入原価 DI

5ヵ月連続のマイナス圏からプラス圏に上昇

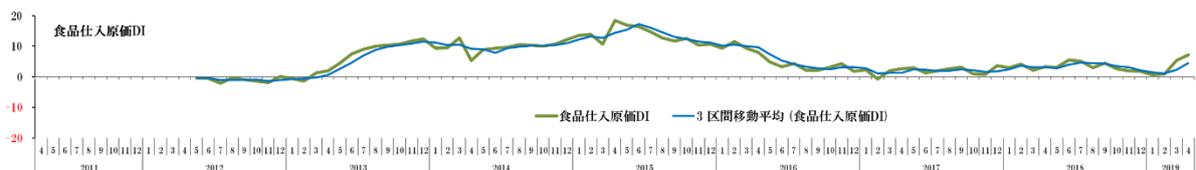
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	4.2	24.9	49.7	18.5	2.6	-2.4
生鮮仕入原価 (当月)	1.8	15.2	56.7	24.4	1.8	2.3



7. 食品仕入原価 DI

当月さらに上昇し、プラス幅を拡大

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.2	9.0	53.4	31.7	2.6	5.4
食品仕入原価 (当月)	3.0	7.9	48.5	38.8	1.8	7.1

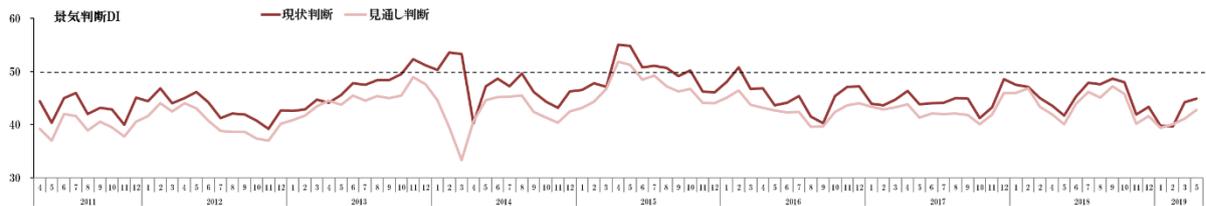


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な改善が続く

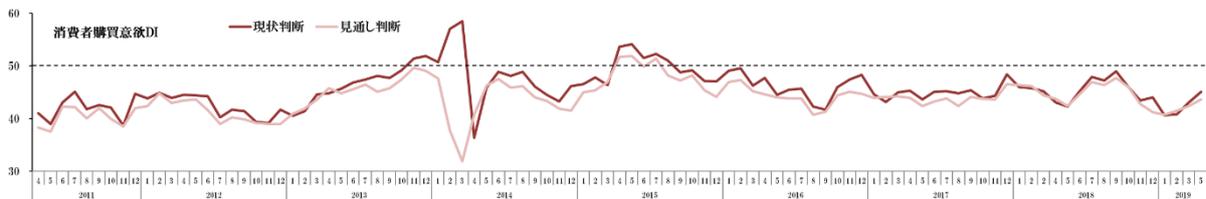
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	4.2	27.4	56.8	10.5	1.1	44.2
【現状】景気判断 (当月)	3.0	25.7	59.9	11.4	0.0	44.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	6.3	31.1	54.2	8.4	0.0	41.2
【見通し】景気判断 (当月)	4.2	28.3	59.6	7.8	0.0	42.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に改善傾向

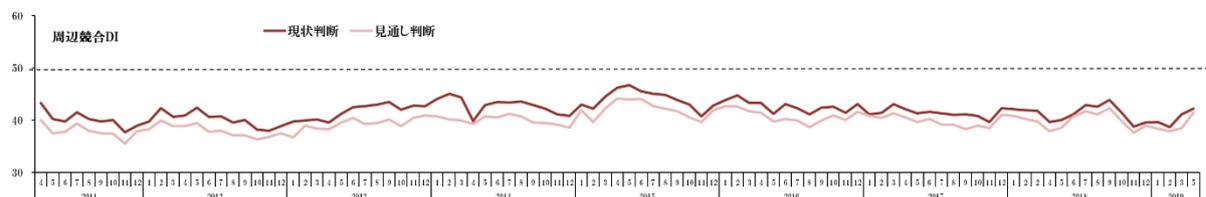
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.1	30.4	60.7	6.8	0.0	43.1
【現状】購買意欲 (当月)	2.4	23.4	65.9	8.4	0.0	45.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.6	30.9	60.7	5.8	0.0	42.4
【見通し】購買意欲 (当月)	2.4	27.1	63.9	6.6	0.0	43.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや改善

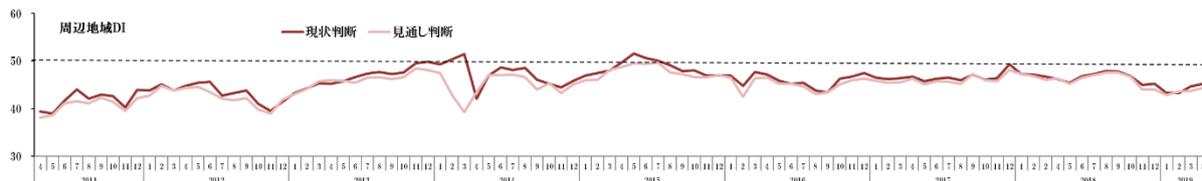
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.7	28.6	64.1	2.6	0.0	41.1
【現状】競合状況 (当月)	5.4	23.4	68.3	3.0	0.0	42.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	9.4	30.2	57.3	3.1	0.0	38.5
【見通し】競合状況 (当月)	6.0	25.1	65.9	3.0	0.0	41.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し共に小幅な改善が続く

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.6	20.6	75.1	2.6	0.0	44.7
【現状】地域景気 (当月)	0.6	19.4	78.2	1.8	0.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.7	21.8	73.4	2.1	0.0	43.8
【見通し】地域景気 (当月)	1.2	21.8	75.2	1.8	0.0	44.4



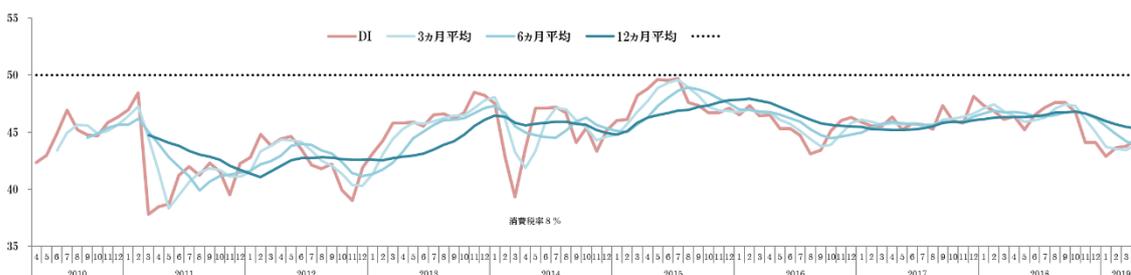
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷が続いていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

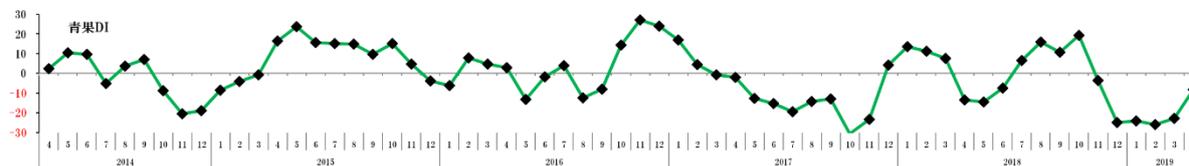
10月から再び悪化幅を広がり、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いた。3月と4月はやや持ち直しの動きをみせている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-8.2（やや不調）

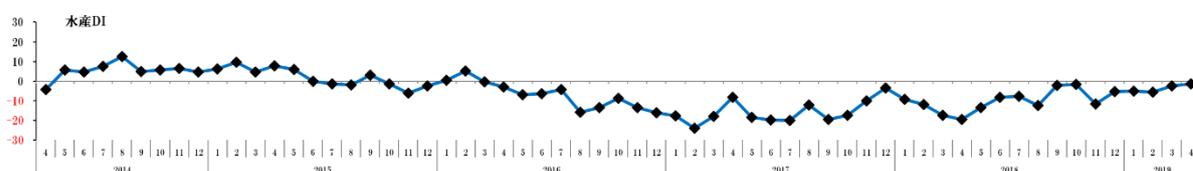
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	33.3	37.7	18.6	8.2	2.2	-23.0
青果（当月）	13.0	32.9	30.4	21.1	2.5	-8.2



全体として相場安にはやや落ち着きが見られはじめたが、販売点数の伸び悩んだことで葉物類や根菜類を中心にやや不調となった。トマト類などサラダ用野菜も苦戦した店舗が多かった。春物の豆類（グリーンピース・スナップエンドウ）、健康報道のあった玉ねぎや舞茸などが好調とのコメントがみられた。ばら売りやカット野菜に対する需要の高まりの指摘が多かった。果物類は低い気温ですいかが不調、柑橘類は好不調まちまちであったが、キウイフルーツやアボカドの動きがよかった。輸入ぶどうが好調とのコメントもみられた。

2. 水産DI：-0.8（やや不調）

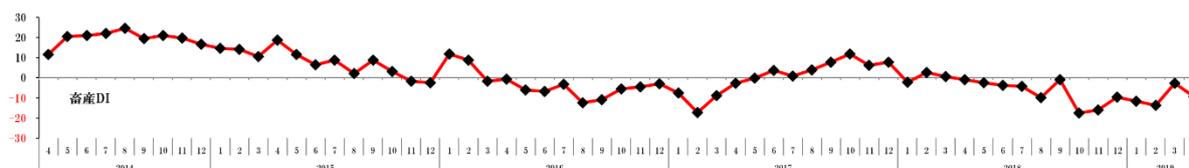
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.6	30.8	35.2	20.3	7.1	-2.3
水産（当月）	9.3	24.2	30.4	32.3	3.7	-0.8



今月は気温の影響か好不調動向に店舗での差が大きく全体的な傾向はみられなかった。月末のGWに向け、生食用や大型の刺身盛り合わせなどの動きがよかった。一方でカツオの売上は伸び悩んだ店舗が多かった。塩干類に回復傾向がみられた。旬のホタルイカやイカナゴは不漁により大きく落ち込んだ店舗が多い。海藻類はこれまでの特需からの反動減がみられた。高騰するうなぎは好不調がわかれた。

3. 畜産DI：-9.5（やや不調）

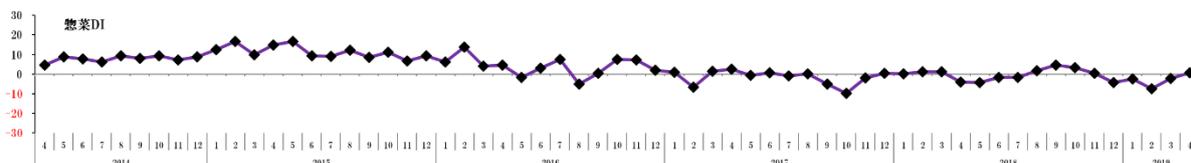
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	7.1	29.7	34.1	24.7	4.4	-2.6
畜産（当月）	12.4	34.8	32.3	19.3	1.2	-9.5



今月は気温の影響か好不調動向に店舗での差が大きく全体的な傾向はみられなかった。月末のGW時期は和牛などの動きがよかった一方で、それ以外の時期は輸入牛の動きがよかった。ステーキ用の赤身肉は好調だが、気温により焼肉用は好不調まちまちとなった。豚肉は相場がやや高騰しているが、気温が低下した地域では国産、輸入豚ともにやや不調とする店舗が多かった。ハムやソーセージなどの加工肉は価格競争の厳しさを指摘するコメントもみられた。

4. 惣菜DI：0.8（やや好調）

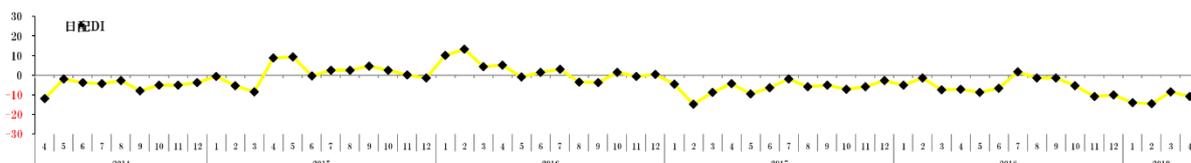
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.7	26.7	40.6	21.1	5.0	-2.2
惣菜（当月）	6.3	22.5	38.8	26.9	5.6	0.8



花見時期に気温や天候に地域差があり、行楽商戦に対する評価はまちまちであった。比較的天候に恵まれた地域では弁当やおにぎりなどの米飯類や寿司類、からあげ、おつまみなどが好調に推移したが、反対に気温低下など天候不良であった地域では不調となった。旬の食材を使った季節感や加工度の高い惣菜の動きがよいとのコメントが多くみられた。前年好調であったサラダ関連は反動で不振となった。出来立ての提供やバイキング形式での販売などが新たな取り組みが成果をあげる一方で、人手不足により十分対応できないことへの不安もみられた。

5. 日配DI：-10.7（不調）

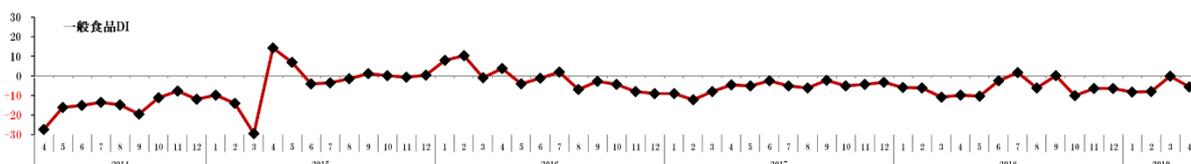
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	8.7	37.2	35.0	17.5	1.6	-8.5
日配（当月）	12.4	36.6	32.9	17.4	0.6	-10.7



前年より気温が低かった地域ではアイスや飲料など涼味系商品は動きが特に悪かった。ヨーグルトカテゴリーや冷凍食品も伸び悩んだ。パン類は好調とする店舗が多かった。健康報道により納豆、甘酒、梅干しは引き続き好調とする店舗が多い。和日配では、豆腐や漬物、こんにやくなどの動きが悪かった。

6. 一般食品：-5.7（やや不調）

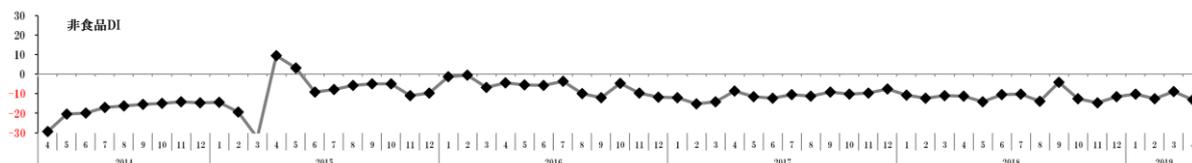
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	3.3	26.1	42.4	23.9	4.3	0.0
一般食品（当月）	8.0	31.5	38.3	19.8	2.5	-5.7



地域による前年との気温差により好不調にばらつきがみられるが、涼味関連は不調となった一方で、スープやインスタントコーヒーなどのホットメニューが好調な店舗が多い。報道によりサバ缶に特需が継続しているが、食酢には前年からの反動減を指摘するコメントもみられた。また米類は好不調まちまちとなった。行楽需要の変化により飲料や酒類の好不調は大きく分かれた。一般食品カテゴリーで値上げの影響やドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品 DI：-13.1（不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.6	35.6	37.9	14.1	2.8	-8.8
非食品（当月）	14.1	39.1	34.0	10.9	1.9	-13.1



電子タバコを中心に好調とのコメントが多くみられた。気温の低下で季節商材は伸び悩んだ。天候要因による行楽商材の好不調に差が大きかった。供給が不足している紙類を不調とするコメントが多かった。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2019年5月調査（4月実績）キーワードTOP3

1. 天候要因（気温が低い、花見時期の天候）
2. 曜日めぐり（日曜日が一日少ない、GW10連休）
3. 近隣との競合（チラシ、特売）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4月実績速報版 192社
 3月実績確報版 167社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp